

### 第三者評価結果

事業所名：いずみ反町保育園

#### A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>保育理念や保育目標、方針に基づき、保育所の社会的責任や人権尊重、苦情処理・解決、年齢ごとの発達過程に沿った保育、食育、地域との連携などについて、全体的な計画を作成している。全体的な計画は、保育士や看護師、栄養士からの意見をまとめ、2月の系列園5園の園長会で見直し、検討を行って作成している。全体的な計画は各園に持ち帰り、それぞれの園に合った内容に修正している。各クラスの担当保育士は、全体的な計画を受けて、年間指導計画、月間指導計画、週間指導計画を立て、子どもの発達に応じた保育につなげている。本園は2～5歳児、分園は0～1歳児と分かれ、それぞれが子どもの特徴に応じた保育を実践している。</p>	
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>本園、分園とも、9：00、15：00に室温を確認し、子どもたちが快適に過ごせるようにしている。保育室は昼食後と夕方に清掃を行い、玩具や壁、ドアノブ、扉などは午睡の間に消毒を行っている。トイレも午睡の間に掃除している。午睡用の布団は、年3～4回、業者による布団乾燥を行って清潔を保っている。園庭などの外回りは、早番の職員が清掃している。分園の0～1歳の子どもの午睡時は、外からの光を少しだけ遮り、オルゴールをかけて安心して眠ることができるよう配慮している。近隣には公園が多くあり、お散歩マップを作成して、子どもたちに合わせて、天気の良い日は散歩に行き、自然に親しんでいる。幼児トイレの扉がないので、改装に向けて検討中である。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>子どもの発達の状況はそれぞれ異なるため、一人ひとりの状況を把握し、職員間で共有して個人を尊重した対応を行っている。まだ言葉のやりとりが不十分な子どもには、保育士が声掛けをしながらその子どもの表情を見て、やりたいことを見つけたり、クラス保育の中で他の友達の中に入れていない子どもには優しく声掛けをしながら、保育士も一緒に遊ぶなど、一人ひとりに寄り添った保育を行っている。幼児クラスでも、実際はできることなのにやらない子どもには、なぜやらないのか、今どんな気持ちでいるのかを見極めながら声掛けをしている。強いこだわりのある子ども、遊びを終わりにして次の場面への切り替えがうまくできずにいる子どもには、一対一で、納得のいくような関わりを行っている。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>本園では、2歳児がお兄さんお姉さんのやることを見て、やってみたいという気持ちになり、自分で洋服を脱ごうとしたり、靴下をぬいで靴下入れに入れたり、自分でやろうという気持ちになっている。幼児クラスの子どもは、2歳児へのいたわりや、お兄さんお姉さんとしての自覚が出てきたり、自然と生活習慣も身に付けることができる環境になっている。週1回の外部講師による体操教室では、体操着を着て登園している。体操が終了すると体操着を脱ぎ、持参した自分の洋服を着ることや、午睡の時のパジャマへの着替えが自然にできるようになっている。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt;</p>	
<p>各クラス、手の届くところに本棚を設置し、玩具も自分で出せるように置いている。子どもたちは、室内遊びの時は各自好きな物を持ち、やりたい仲間と自主的に遊んでいる。ごっこ遊びに夢中になる子ども、プラレールに夢中になる子どもなど、さまざまである。4～5歳児になると、自分が作ったものと友達が作ったものを合体させ、大きな作品を作るなど、共同での遊びを楽しんでいる。天気の良い日は近くの公園に行き、どんぐりや落ち葉を拾い集め、何を作ろうかと考えている。運動会や発表会に、どんなものがやりたいか、子どもたちと一緒に話し合い、企画し、実際にイベントを行っている。</p>	

A-1-(2)-⑤  
【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

0歳児は現在6人おり、分園で2人の職員と、フリーの職員1人が関わられるよう配置している。十分に愛着関係を作り、安心して園生活を送ることができるようにしている。一人ひとりの生活リズムに合わせ、午前、午後と午睡する子どもには、静かな環境を整え対応している。月曜日の朝は、母親と離れたくなくて泣く子どもも多いが、しっかりと抱きしめ、離れたスペースで落ち着いてから遊びに入るなど配慮している。情緒の安定を第一に考え保育にあたっている。遊びの中からいろいろなものに興味、関心を持てるよう、室内での遊び、箱型バギーに乗っての園外での遊びで、自然や人との関わりを体験できるようにしている。

A-1-(2)-⑥  
【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

分園の1歳児の保育は、表情や態度、目線などから子どもの気持ちを感じ取っている。昼食前に眠くなって泣いてしまう子どもには、安心して寝ることができるように対応し、受け入れ時に不安定な子どもには、保護者から家の様子を聞き、個々の気持ちに寄り添いながら関わると同時に、体調確認もしつつ、日中の様子を保護者と共有するようにしている。その結果、登園時に安定した受け入れができるようになったなど、子どもの情緒の安定を図っている。遊びの中では、保育士と一緒に関わることで、安心して遊びができるようにしている。また子ども同士の関わりでも、保育士が仲立ちをして、遊びの輪を広げている。食事、睡眠、着脱など、自分でやろうとする気持ちを大切にしながら保育を進めている。2歳になると本園での保育になり、今までと違いお兄ちゃんお姉ちゃんを見て、同じようにやってみたいなど自主性や自我の目ざめが見られるようになってきている。保育士は援助を行いながらも優しく見守り、できた時は子どもと一緒に保育士も喜び合っている。

A-1-(2)-⑦  
【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

3歳児クラスは日常生活のことは自分でできるようになってくるが、失敗したりすることもある。そのような時は、この次はきっとできるよと励ましなが、一緒にやってみたりしている。思いを表出できない子どもには、保育士の方から「こんなこと、やってみる？」など声掛けをしながら、やりたいと思っていることを一緒にやっって対応している。4歳児は相手の子どもに対しての思いやりが考えられるように、5歳児は友達と共同で遊んだり、協力し合えるよう保育を行っている。5歳児は今日で退園するおともだちにメッセージを書こうなど、文字への興味関心を自然に持てるような状況になってきている。文字だけでなく、数字や記号などにも関心を持ってきており、年長であるという意識が強くなってきている。日常的に異年齢との関わりをもつことで、小さい子どもへの気持ちが自然に養われるようになってきている。

A-1-(2)-⑧  
【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

本園、分園ともバリアフリーになっていて、障害児を受け入れる体制を整えている。重要事項説明書に障害児の受け入れを記載していることから、保護者も障害のある子どもも皆同じように受け止めている。障害のある子どもには、療育センターの巡回があり、アドバイスを受けている。医療的支援が必要な子どもには、栄養士がミキサーを使用して調理して、看護師が食事を注入、介助している。また、こだわりのある子どもに対しては、子どもが満足できるよう、保育士が一対一で関わって対応している。子どもたちは障害があっても自然に受け入れて一緒に遊んでいる。職員は障害児の研修を受けたり、キャリアアップ研修を受けて研鑽している。障害認定を受けている子ども以外にも、気になる子どもが複数いる。

A-1-(2)-⑨  
【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。

a

<コメント>

朝は7時から7時半、夕方は16時半から20時までを長時間保育としている。分園は現在利用はないが、本園では数名の子どもが利用している。本園の一部屋を使用して保育を行っている。16時半以降に補食として、おにぎりやスूपなどを提供している。子どもたちが不安にならないよう、マットの上で落ち着いて過ごせるようにしたり、1人分のスペースを確保したりして対応している。保育士はしっかりと寄り添いながら、絵本を読んだり、玩具で遊んだりして、楽しく過ごすことができる工夫をしている。長時間保育は2名の保育士が担当し、保護者からのアプリを確認したり、「受け入れ表」を使用して、夕方の引継ぎでクラス担当の日勤者から細かい申し送りを受けている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

卒園近くなると午睡がなくなり、小学校への入学に向けて、給食時間を小学校と同じ時間にして、もぐもぐタイムとしてしっかり噛んで食べることを意識付けたり、アプローチカリキュラムを作成して、小学校生活を見据えた活動を取り入れている。近隣小学校へ見学に行き、ランドセルをしょわせてもらったり、小学校と連携を取ることで子どもたちの不安を解消している。子どもの育ちや生活について、担任職員が「保育所児童要録」を作成し、主任・園長が確認後、小学校に提出している。幼保小連絡会などの招待で、子どもたちは水遊びを行い、遊びを通してつながりを作るようにしている。

<p>A-1-(3) 健康管理 【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
--	---

<コメント>

健康管理マニュアルに基づき、登園時に一人ひとりの子どもの機嫌はどうか、鼻水はどうかなど、視診を行いながら受け入れている。日中の活動の中でも、暑さ対策やけが防止などに配慮している。入所時、健康台帳に既往症や日頃の健康状態、予防接種の状況などを保護者に記入してもらい、ファイルして保育士が共有している。携帯アプリでの保護者とのやり取りで、家での健康状態や様子、園での様子などを密に連絡合っている。保育士間の共有も密に行い、全職員が子どもの健康状態を把握できるようにしている。園内や散歩中に緊急事態が起きた時には、手順書に従って対応できるよう全職員に周知している。首から上のけがは必ず受診し、状況を記録用紙に残し、今後の事故防止への参考にしている。

<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
--	---

<コメント>

嘱託医の小児科医師と連携し、6月と10月に定期健康診断を園で行っている。また、歯科医師も、7月と1月に定期歯科健診を行っている。健診の結果は健康台帳に保管し、保護者には結果報告書を提出している。子どもに虫歯などがある場合は、歯科受診を促している。コロナ禍前は、歯科医師による歯磨き指導を行っていたが、現在は実施していないため、クラスの中で食後の歯磨き指導を行っている。また絵本などで、子どもたちに歯の大切さを伝えている。

<p>A-1-(3)-③ 【A14】 アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

アレルギーガイドラインを整備している。アレルゲンが卵、乳製品、鰾、ジャガイモなどの子どもがいる。ガイドライン及び医師の指導の下、アレルギーのある子どもには除去食を提供している。アレルギーのある子どもに食事を提供する時は、マークの付いたテーブルや椅子を使用し、他の子どもと色の異なるトレーや食器で提供している。配膳も一番先に行い、配膳した保育士がチェック表にサインをしている。看護師や栄養士、保護者と連携して、食事を提供している。看護師や園長による園内研修、外部のキャリアアップ研修に保育士が参加し、アレルギーに対する理解を深めている。

<p>A-1-(4) 食事 【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
--	---

<コメント>

本園、分園とも、栄養士が「年間食育計画」を作成し、子どもたちが食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。食器や食具は子どもの発達に合ったものを使用するようにしている。また、食事時間が楽しくなるよう絵本を読み、食べたくなるような雰囲気作りを行っている。夏野菜を栽培し、収穫したトマトやピーマン、ナスなどでピザを作って調理の体験をしたり、0～1歳児は、スイカやトウモロコシに触ってみよう、豆腐をつぶしてみよう、キノコを割ってみようなど、実際の野菜を見て触ってみようという体験をしている。離乳食は現在は完了食の子どもがいるが、適齢児がいるときは初期食、中期食、後期食、完了食に分け、保護者と連携を取りながら献立を作成して提供している。保護者には献立表や給食便りにて、レシピの紹介をして、園での取り組みを理解してもらっている。

<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 「食事の提供にあたって」などの衛生管理マニュアルのもと、食材の管理、調理の方法など、子どもたちが安心して食べられるよう取り組んでいる。栄養士も各クラスの食事の様子や献立の反応を確認している。月1回の給食会議では、子どものかむ状況や食材の大きさなど、メニューの振り返りを行い、次の献立に活かしている。食の細い子どもには食べられる量を提供したり、お代わりができるようにしている。食材は旬の食材を使用し、地域の食文化を伝えるため、神奈川県や青森県、福岡県などの「ご当地メニュー」の日を設け、今日はどこの県？と楽しんでもらっている。また、絵本の中に出てきたおやつを作って、「絵本おやつ」として提供している。「白くまちゃんのホットケーキ」「お化けの天ぷら（さつま芋の天ぷら）」など、子どもたちは絵本を読んでもらいながら、「おなじだー」と大喜びで食べている。</p>	

## A-2 子育て支援

<p>A-2-(1) 家庭と緊密な連携</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 保護者とは、本園、分園とも、朝夕の登降園時に情報交換を行っている。連絡事項や子どもの体調、家でのエピソード、園での様子などは、携帯のアプリを活用している。現在、紙ベースの連絡帳は使用していない。また、園だよりにて指導計画の内容を理解してもらっている。保護者に園の様子を見てもらうために、保育参観を行っている。分園では、祖父母の保育参観も行っている。保育室の広さに限界もあり、保育参観は分散して行っている。運動会には予行練習の時に保護者に来てもらい、園での様子をできるだけ多くみてもらえるようにしている。保護者からは、アプリで子育てに関する相談がある。保育士はアプリや口頭で相談にのっている。</p>	

<p>A-2-(2) 保護者等の支援</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 保護者との信頼関係構築のため、登降園時の対話を大事にしている。園の様子を具体的に伝えられるよう、アプリで写真を見てもらっている。動画などで確認すると、保護者は安心している。「こんなことが気になっているのですが」などの相談があった場合は、保護者の勤務時間を考慮して、ゆっくり相談ができる時間に対応している。相談を受けた保育士は、その場で対応し、その場で対応できない場合は園長に相談の上、後日助言や回答を行うようにしている。園児の散歩の際、公園で地域の方から相談を受けることもある。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p>&lt;コメント&gt; 法人で虐待防止マニュアルを整え、職員に周知している。日々の保育の中では、本園では午睡時の着替えの時、分園ではおむつ交換時、また、身体測定時などに身体状況を確認している。子どもの会話、行動から状態を把握するようにしているが、現在は問題となるケースは見られない。権利侵害、虐待防止のため、必要に応じて、写真に残す、記録する、園長の判断で関係機関に通報するなどの仕組みを整えている。保護者から「家で食事中熱いお鍋に触ってしまってやけどをした」などの報告はあるが、虐待などの事例はない。</p>	

## A-3 保育の質の向上

<p>A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	b
<p>&lt;コメント&gt; 日々の保育のあり方については、分園の乳児会議、本園の幼児会議などで、子どもの育ちの状況、保育士自身の保育のあり方など、反省や今後の関わり方などを話し合っている。指導計画にも反省、評価の欄があり、次月の保育に活かしている。年度初めに「チェック表」を全保育士に配布し、個人の目標を立てている。子どもの育ちについて、自らの保育について、指導計画、環境など、細かな項目について、それぞれが目標を立て、半年後と年度末に振り返りを行っているが、位置付けや内容については、不十分と感じている。今後、自己評価内容について、検討、追加など考えている。</p>	